

「ゴールデンウィーク」によせて

～生徒のみなさん、保護者の皆様へ～

4つの祝日が続くゴールデンウィークにちなみ、今年度は、1年生は文部科学省発行の『私たちの道徳』、2年生は中学生人権作文コンテストの入賞作品、3年生は一昨年度に海南東ロータリークラブ40周年記念事業として寄贈された『心にしみる小さな5つの物語』を読んで、親子で読んで話し合っていたいただくことを計画しました。

学校にお寄せいただいたたくさんの感想文の中から、ほんの一部で恐縮ですが、紹介いたします。ご協力、有り難うございました。

平成30年5月10日

海南市立第三中学校 人権教育部

【3年生】

【生徒感想】

僕も野球をやっているけど、イチロー選手みたいにあれだけの自信は持ったことがない。365日中360日と、ほぼ毎日練習をしているからあれだけの自信が持てるのだと思う。そしてプロ野球選手になると断言しているところがすごいと思う。自分の夢に対して、いささかも迷いがなく、夢を素直に信じている。そんなことができるのはイチローだけだと思うし、イチローは天才だと改めて思った。そのような選手になるには、毎日の努力とお世話になった人に対して報いるという報恩の心が大切だと思う。自分も、「夢実現」という目標を夢だけで終わらせず、しっかりと努力して実現させたいです。

(第一話「夢を実現する」)



母親の優しさに思わず涙が出た。結核になってしまった母親に、怒られたり、物を投げらついたりされた少年のことを、はじめはかわいそうだと思っていた。しかし、母親が息子の幸せを願って自らが嫌われるような行動をしたことに感動した。自分の実の子に嫌われるのは悲しいと思う。でも、息子の幸せのためと思ってやっていたんだと思うと、本当に涙が出る。この物語を読んで、自分の家族の大切さが分かった。反抗期の私がこの物語を読んだのは、良いタイミングだったと思う。親の子供を思う気持ちは、とてもすばらしいものだと分かった。 (第二話「喜怒哀楽の人間学」)

人生を生きるという大変さ、大切さ、美しさを思わされた。人生を生きる大変さとは、一人で全てをこなし、一人で生きていくことなどできないということ。誰かに支えられて生きていけるということ。大切さとは、一つの命を持って生きているということ。生んでくれたことが、とてもとても有り難く、感謝しなければいけないこと。美しさとは、喜び、悲しみ、苦しみを感じ、人と人が

接触することで生まれる豊かな感情があること。これら全てがあるのは、周りの人がいるからで、今を安全に楽しく生きられているのも、皆がいるからだ。一人一人には、この本のいう「人生のテーマ」があり、皆それに向かって歩んでいるのだと思う。今を一生懸命生きることが、今の私たちにできることなんだと思う。

(第四話「人生のテーマ」)

【保護者感想】

この物語を読んで、自分は本当に心の中から感謝の気持ちを持って人と接してきたか、と問われた思いがしたのと同時に、人に何かをしてもらうことは当たり前のことではないのだと思い知らされました。子は親の背中を見て育つという言葉がありますが、「おかげさま」の気持ちを持った親に育てられれば、子供はそれに応えてくれる。先ずは、自分自身が感謝の気持ちを持つことが大事だと思いました。口で言うのは簡単かもしれませんが、これからは何事に対しても「おかげさま」の忘れずにしたいと思います。

(第三話「人の心に光りを灯す」)

人生をかけて作った詩に、大切なことは何かを教えられたような気がしました。大好きな母を苦しめているのが自分ではないか、自分さえいなければ母はもっと幸せになれたのではないか、そう思いながら毎日を生きていなければいけなかった。作者のごめんなさいという気持ち、ありがとうという気持ち、いたいほど伝わってきました。人生におけるテーマは、人それぞれ。それほど大きなテーマは何なのかを見つけられるのは難しいけれど、今、自分たちが健康で生きていけることに、改めて感謝しなければいけない。それが当たり前だと思い、人と比べたり人を傷つけたりしている。もう一度、何が大切なことなのか考え直し、毎日を大切に生きていかなければと思いました。

(第四話「人生のテーマ」)

人の縁とは不思議なもので、その出会いによって人生が変わったりすることもあると思います。もちろん、悪い方へ導いていかれるような出会い(縁)もあるとは思いますが、きっと長い人生の中で、自分にとってかけがえのない縁のある人(良い方向へ導いてくれる人)は、どんな人にも現れることと思います。友達、先生、周りの人、たくさんの良い縁に恵まれて、子供たちも幸せな人生を送ってもらいたいものです。また、他の人から自分と出会えて良かったと思われるような人にもなれたら、素敵なことだと思います。

心にしみて涙が出ました。世の中にはいろいろな境遇の人がいて、懸命に前を向いて生きている人もいれば、そうでない人もいます。人との出会いで希望の光を見出し、心の支えとして立派に成長することが出来たのも、感謝の気持ちを忘れず、自身で成長する努力をしたからだ、この物語を読んで感じました。私自身また子供にとっても出会う人との繋がりを大切に、その縁を自分自身に活かし、また感謝の気持ちを忘れないようにしたい、してほしいなと思います。

(第五話「縁を生かす」)